

大会名 Competition	第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会 富山県予選		場所 Place	南砺市福野体育館
NO. A1	日時	2024年11月3日	10:00	

龍谷富山

高岡商業



74	19	1Q	19	54
	22	2Q	2	
	19	3Q	15	
	14	4Q	18	
		OT		

Crew Chief	Umpire 1	Umpire 2
一ノ谷 聡	板井 巖	中嶋 康弘

Table Officials
砺波高校

龍谷富山

NO	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	4	中野 真優	18	1	6	3	1
2	5	佐々木 瑠那	5	1	1	0	0
3	6	川西 渚紗	0	0	0	0	1
4	7	小幡 明日奏	8	2	1	0	0
5	8	赤木 なるみ	2	0	1	0	1
6	9	川崎 瑠那	3	1	0	0	0
7	10	廣岡 一花	0	0	0	0	0
8	16	林 えり	2	0	1	0	1
9	23	竹部 美咲	14	0	7	0	0
10	24	山本 茉莉亜	0	0	0	0	0
11	29	伊藤 想乃香	13	0	6	1	3
12	30	赤坂 菜緒	4	0	2	0	0
13	31	新崎 馨	5	0	2	1	0
14	50	魚浦 美希	0	0	0	0	1
15	86	黒田 紗矢	0	0	0	0	0
	コーチ	有山 景子					0
	Aコーチ	成瀬 夕湖					0
		合計	74	5	27	5	8

高岡商業

NO	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	4	濱谷 珠果	12	0	4	4	1
2	5	橋場 日乃音	4	0	2	0	0
3	6	原野 瑞希	10	2	2	0	4
4	7	野村 祐希	2	0	1	0	0
5	8	羽岡 雅	8	0	2	4	1
6	9	笹尾 愛緑	0	0	0	0	0
7	10	若林 ななか	14	0	6	2	3
8	11	土田 小百合	0	0	0	0	0
9	12	嶋原 心優	0	0	0	0	0
10	13	堀 楽音	0	0	0	0	0
11	14	福島 雅	0	0	0	0	0
12	15	小倉 美央	4	0	2	0	4
13	16	金場 柚	0	0	0	0	0
14	17	谷井 咲音	0	0	0	0	0
15	18	苗加 怜奈	0	0	0	0	0
	コーチ	橋 昌二					0
	Aコーチ	飴井 貴博					0
		合計	54	2	19	10	13

戦評

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

高岡商業ボールでスタート、お互い積極的にオフェンスを仕掛ける。龍谷富山は体格差を活かしポストプレーを中心にオフェンスを組み立てるのに対して高岡商業はドライブから果敢にリムアタックをし、フリースローやレイアップで得点を決めるなど拮抗したゲーム展開。高岡商業がプレスディフェンスを仕掛け、龍谷富山はターンオーバーをする場面もあるが、流れを渡すことなくしっかりと点の取り合いに応じる。19対19で1Qが終了。

2Q、龍谷富山は1Q同様ポストプレーを中心にオフェンスを展開するも高岡商業が粘り強いチームディフェンスでしっかりと守る。高岡商業はオフェンスが停滞していてタフショットが多く、残り時間5分まで点が入らない。チームでディフェンスを頑張っていた高岡商業だが、ポストプレーから体力をじわじわと削られ、龍谷富山が立て続けに2点を決める。オフェンスがうまくいかない高岡商業は3pが外れたところでタイムアウト。アムアウト明け、さっそく相手のミスからレイアップを決め流れに乗るかと思われたが、龍谷富山もすぐさま3pを返し流れを渡さない。その後は龍谷富山が#23のバスケットカウントや#4がスティールからレイアップを決め、オフェンスリバウンドを何度もとり#5が3pを決めきるなど龍谷富山が勢いに乗る展開となり、流れは龍谷富山に。41対21で2Qが終了し大きく点差が開いた状態で前半が終了。

3Q開始直後、すぐさま龍谷富山#7の3pが決まる。高岡商業も#10のドライブからのレイアップなどで食らいつくも、龍谷富山はディフェンスリバウンドからのアーリーオフェンスや、オフェンスリバウンドをしっかりと取りゴール下を決め切るなど得点を重ね、優勢な状況が続く。しかし高岡商業もこのままでは終わるまいと必死にディフェンスでプレッシャーをかけターンオーバーを誘発し、ドライブから得点を重ねる。高岡商業が粘り強い頑張りを見せたが点差は縮まらず、60対36で龍谷富山が優勢なまま3Qが終了。

4Q、3Q同様、高岡商業は必死にディフェンスを頑張りあきらめない姿勢を見せ、ドライブを中心に得点を狙う。対する龍谷富山は幾度かターンオーバーをすることはあっても慌てず、自分たちのリズムでオフェンスを展開し、シュートが外れてもしっかりとリバウンドを取る落ち着いたゲーム運びを見せる。試合終了残り4分から高岡商業はゾーンプレスを展開し、追いつくべく強いプレッシャーでディフェンスを仕掛け早い展開で得点を重ねる。しかし開いた点差を縮めきることはできず74対54で試合終了。龍谷富山が試合を制し、優勝を果たした。